

33. トルコギキョウ青かび根腐病の発生生態と防除

福島県農業試験場病理昆虫部・平成11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 花き—トルコギキョウ—病害虫防除 05—19—23000000

2 担当者 平子喜一

3 要 旨

(1) 品種の違いによる発病の差異

早生種6品種、中早生種2品種及び中晩生種2品種の10品種を供試し、青かび根腐病の発病差異を検討した。本病に最も強く萎凋株がまったく発生しなかったのはキュートブルーピコティーであった。以下強い順にバイカラーピンク>バイカラーレッド>メロウライム>エクローサブルー>あすかの漣>バイカラーパープルE>涼>アロハブルーラインであった。あずまの漣は、本病に最も弱く、萎凋株率が87%に達した。このことから、青かび根腐病の発生に品種間差異があると思われた。

(2) 投入資材および栽培土壌の違いによる発病の差異

完熟発酵堆肥(80kg/a)および厩肥(200kg/a)を土壌に施用することによって、青かび根腐病の発病抑制効果が認められた。微生物資材入り堆肥(30kg/a)の施用は若干の抑制効果が見られた。もみがら(20kg/a)の施用は青かび根腐病の発病を助長した。また、土壌の違いによる発病の差異を検討した結果、灰色低地土壌は、火山灰土壌に比べて根の褐変度が低く、青かび根腐病の発生が低く抑えられた。

(3) 土壌消毒剤による防除対策

クロルピクリンテープ剤(クロルピクリン99.5%及びクロルピクリン55%の2種類)の110m/100㎡及びダゾメット微粒剤の30kg/a全面処理は、防除価98~99と効果が高かった。また、現地農家圃場で実施したクロルピクリンテープ剤(クロルピクリン55%)の全面処理およびマルチ畦内処理は、防除価99以上と効果が高かった。

4 主な参考文献・資料

小野光代・平子喜一(1998)日植病報64:611